

いわき農林水産ニュース

令和3年1月号(第191号) 発行 1月28日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



今が旬のウマツラハギ。脂がのっているの、刺身・煮付け・唐揚げなど、どんな料理でもおいしくいただけます。

目次

- ・【新春を迎えて】県農林水産部長 年頭挨拶……p.1
- ・【新春企画】いわき市農林水産部長
新春インタビュー……p.2～
- 〔各種取組の実績(12～1月分)〕……p.5～
- 〔お知らせ・連載記事〕
- ・いわき地方の出荷制限等品目……p.8
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果……p.8
- ・「高校生発!いわきテイクアウトメニュー開発」
実食キャンペーン……p.9
- ・ふくしま地域産業6次化サポートセンター
いわき事務所が開所……p.10
- ・イベント情報……p.10
- ・GAPコーナー……p.11
- ・6次化商品紹介……p.12

新春を迎えて

県農林水産部長 年頭挨拶

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、東日本大震災からの復興と令和元年東日本台風災害からの復旧に市町村や関係機関と一丸となって取り組む中、新型コロナウイルス感染症の拡大による社会経済活動の停滞に伴い、本県においても、牛肉や花き、魚介類、さらには米の需要が減少し、価格が下落したほか、県産農林水産物のおいしさや品質の高さを消費者等に直接お伝えする機会を失うなど、本県農林水産業に重大な影響を与えた1年となりました。

一方、そうした中でも、全ての海産魚介類に対する出荷制限の解除を始め、浪江町や新地町の漁港における市場の再開や、楢葉町での大規模甘藷貯蔵施設の完成など、復旧・復興が着実に進んでまいりました。

いわき地方においては、取組開始から4年目となる梨のベトナムへの輸出が継続して行われたほか、市内の高校生と飲食店等のコラボによる新しい生活様式にも対応する地場産食材を使用したテイクアウトメニューの共同開発など、果敢に挑戦する取組が行われております。

また、県では、新型コロナウイルス感染症の拡大により落ち込んだ農林水産物の需要拡大を図るため、県産牛肉や水産物等の学校給食への提供、リモートでのトップセールスの実施、オンラインストアへの支援強化など、関係の皆様と連携して様々な対策に取り組んでいるところです。

今年は、震災から10年の大きな節目を迎え、本県農林水産業の復興にとって大変重要な年となります。

県といたしましては、引き続き、新型コロナウイルス感染症による影響に的確に対応しながら、営農再開の更なる加速に向けた生産基盤の整備や担い手の確保、ICTを活用した新技術の導入、認証GAPの取組拡大等による選ばれる産地づくり、水稻新品種「福、笑い」等の福島ならではのブランドの確立、東京オリンピック・パラリンピックでの県産品の国内外へのPR、林業担い手育成のための「林業アカデミーふくしま」開講に向けた体制構築、資源管理を進めながら少ない労力で高い収益を確保する「ふくしま型漁業」の推進など、本県農林水産業の力強い復興と更なる発展にまい進してまいりますので、本年も皆様の御支援と御協力をお願いいたします。



福島県農林水産部
松崎浩司部長

新春企画

いわき市農林水産部長 新春インタビュー

インタビュアー あけましておめでとうございます。新春を迎えて、2021年にいわき市が新たに取り組んでいきたいことなどについて、いわき市農林水産部 本田和弘部長にお話を伺いたと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

本田部長 あけましておめでとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

インタビュアー まず初めに、いわき市は令和元年東日本台風等により農林業においても大きな被害を受けましたが、市内の復旧状況や取組について教えてください。



いわき市農林水産部
本田和弘部長

本田部長 農林水産部所管被害では、いちばん大きかったのは農地と農業用施設で、全体で約 1,000 箇所被害がありました。現在は 9 割以上発注しており、5 割以上復旧しています。

今回の台風の被害は農業だけでなく、河川など広範囲に及んだため、対応する人材や資材の不足があり復旧の遅れが生じてしまいました。そのような状況の中で、水田については作付けに直接影響する農地や農業用施設を優先的に復旧し、営農再開に向けできるだけ支障が生じないように、引き続き復旧工事を進めてまいります。

林道は全体で 381 箇所の被害がありましたが、現在 7 割以上が復旧しています。残りについてもできるだけ早い時期に復旧を完了させて、市民生活や林業関係者の方にご迷惑がかからないように進めていきたいと考えております。

インタビュアー 次に、市内でも新型コロナウイルス感染症の影響が出ていますが、対策などについてはいかがでしょうか。

本田部長 新型コロナウイルス感染症については、私どもが今まで経験したことがないため、まずはどのような対策を取ればいいのかということから考えなければなりません。

そこで、認定農業者や卸売業者あるいは 6 次化に取り組んでいる施設、漁業関係者などを対象とした電話によるアンケート調査を行い、その中で特に影響が大きく対応が必要である課題に取り組んでまいりました。具体的には、売上が減少し販売価格が低迷してしまった花き農家を支援するため、福島県花き振興協議会の助成制度を活用し公共施設等に地元産の花を飾ろうというキャンペーンを行いました。飾ってみると施設の皆さまから「心が癒やされた」「今後施設で定期的に花を購入したい」という声を多くいただき、効果があったのではと感じております。

また、外出の自粛などによって、主に外食産業で使われていた牛肉・ヒラメなどの高級な食材が打撃を受けました。そのため県の事業を活用し、給食への和牛やヒラメの提供などを行ってきました。市独自でも、ホームページに「支えあい掲示板」を開設し、生産者の直売情報や飲食店のテイクアウトメニュー情報、消費者へのチャレンジ企画などの情報を提供して、支え合いを実施しました。さらに、いわき農林事務所や JA 福島さくらの職員の皆さまと一緒に市職員も牛肉・いちご・花などの影響の大きい品目などの購入に参加し、直接的な支援も行ってきました。

新型コロナウイルス感染症についてはまだ先が見通せない状況ですので、今後は新しい支援も含めて検討していく必要があると考えております。



(ヒラメを使った給食)



インタビュー 続いて、いわき市の 2021 年の取組について、昨年の取組を振り返りながら、伺いたいと思います。まず、農業分野の振興に向けての取組として、どのようなことがありますか。

本田部長 最初にお米についてですが、いわき市のブランド米「Iwaki Laiki」を含む浜通り産コシヒカリは、日本穀物検定協会の食味官能試験で4年連続最高評価「特A」を獲得しております。昨年は「ミシュランガイド東京」に3年連続掲載されている「おにぎり浅草宿六」の協力を得ておにぎりをライブキッチン方式で提供するイベントや、湯本温泉とのコラボにより日帰り朝湯と朝食おむすびを提供するキャンペーン「モーむす。～温泉宿でモーニングおむすび～」を実施しました。



(ライブキッチンの様子)

さらに、今年1月にマルトさんが全国スーパーマーケット協会主催の「お弁当・お惣菜大賞 2021」において「Iwaki Laiki」の最上級米である「Premium Iwaki Laiki」を使用したおにぎりで最優秀賞を受賞されたので、全国的にも「Premium Iwaki Laiki」のおいしさが認められたのではと考えております。また、高級路線を目指す一方で、「Iwaki Laiki」を普段使いのコスパの良い地元のお米として、更なる普及を図っていきたくて考えております。そのほか、平商業高校の生徒達と米粉を使った食パン「PILINA」を企画・販売することもできましたので、今後も引き続き若い世代の人たちとも一緒になっていわき産のお米の新たな価値を広げていきたくて考えております。

お米についてはやはり新型コロナウイルス感染症の影響を受けており、在庫が増えて販売価格が落ちている状況になっているので、さらに生産に対する支援をしていければと考えております。

また、中山間における産地形成モデル事業を展開しておりまして、高収益が期待できて育てやすい品目としてピーマンや夏秋ねぎを選定し、希望する農家さんを対象に試験栽培を行ってまいりました。産地形成の足がかりとしてかなり成果が見えてきており、来年度は南部地区にもモデル事業の拡大を検討していきたくて考えております。



(「いわきのめぐみ伝え隊！」任命式)

地産地消の推進という点では、昨年10月から「いわきのめぐみ棚」といういわき産農産物の常設棚を市内の量販店 11 店舗に設置させてもらっています。また、いわき出身の女優・武田玲奈さんを隊長に「いわきのめぐみ伝え隊！」を結成いたしまして、市内の生産者の方々などに応援団となってもらい各種プロモーションを行っています。量販店の皆さまからの評判もなかなか良く、今後も地産地消の充実に向けて取り組んでいければと考えております。

給食に関することとして、保育所給食へ未利用品・規格外品を活用する事業を令和元年 11 月から行ってまいります。当初は月1回の取組でしたが、子どもたちが給食を残さず食べようとする姿が見られたことから、昨年の8月からは月2回に回数を増やして実施しています。子どもたちへの食農教育の推進、農産物の流通において不利な扱いを受ける規格外品を活用できるなど多くのメリットがあることから、今後も継続して実施していきたくて考えております。

また、昨年2月には「いわき市魚食の推進に関する条例」が制定されました。いわき市は海に面していることから魚食の伝統が培われており、その伝統を絶やさないために魚離れが進んでいる若い世代を対象に事業を展開しようということで、地場ものを中心とした魚を取り入れた学校給食を年9回提供しています。提供する際には水産課職員等が学校を訪問し、講話や「常磐もの」のPRを行うなど、理解・関心を深めるための取組をしています。

令和3年度から農業振興課を再編し、市場が求める農産物のマーケティングなど流通に関する業務に重点的に取り組む「農政流通課」と、生産者の育成・支援等に関する業務を行う「生産振興課」を新設することで、マーケットインの視点から農業・農村の更なる振興に向けた取組を推進してまいります。

インタビュー 次に、林業分野の取組についてはいかがでしょうか。

本田部長 林業は今大きな転換期を迎えています。特に、森林の持続可能な管理と、林業の成長産業化の両立を図る「森林経営管理法」に基づき、規模が小さく経営が難しい所有者から委託を受けて、市が森林整備を行い森林の荒廃を防ぐ「森林経営管理事業」が進められています。今年度は平・大久地区でモデル事業を行いました。今後は市内全域で森林経営管理事業を長期にわたって実施していくために、市内の森林所有者に対して事業の説明会を開催し、説明会で寄せられる意見やモデル事業での成果を踏まえて、経営管理事業として取り組む森林の施業順位などを定めた「全体計画」の作成を進めてまいります。



(いわき市産木材利用推進会議の様子)

木材の利用に関しては、特に市の木材を自分たちのところで使ってほしいという気運が高まっておりまして、今回「(仮称)いわき市豊かな森づくり・木づかい条例」の制定に向けた取組を進めています。この条例は、ただ木を使うだけでなく、市民の皆さま全体で森林や山の持つ多面的な機能について理解を深めて、豊かな森を守っていきましようという趣旨の内容となっております。市民の皆さまの理解促進に繋がるようなイベントの開催などを通して、本市の森林・林業・木材産業の活性化に努めていきたいと考えております。このような条例の制定は東北の市町村では初めてとなりますので、本市が他の市町村を先導するようなモデル的な取組ができればと考えております。

インタビュー 最後に、水産業分野での取組についてはいかがでしょうか。

本田部長 福島県においては原発事故の影響が未だに色濃く残っており、処理水の問題も懸案事項となっております。その中で今、各漁協において本格操業に向けた協議を進めている状況です。水産業においては後継者がなかなか育っていないという状況がありますので、後継者の確保に向けた取組の支援についても考えていく必要があると考えております。

また、先ほど申し上げた「魚食の推進に関する条例」にあわせて、毎月7日が「魚食の日(さかなの日)」になっていきますので、市民の皆さまに対する魚食の関心と理解を深めるとともに、漁獲・生産物の付加価値を高めながら、水産物などの消費拡大を進めていきたいと考えております。さらに、条例において3月7日は市・事業者の方々・市民の皆さんと協力してさかなの日にふさわしい事業を実施することとしておりますので、市内外に市の魚・メヒカリをはじめとする「常磐もの」の魅力を伝えて、更なる消費拡大・販売促進を図ってきたいと考えております。



(「さかなの日」チラシ)

インタビュー ありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします！

林業労働安全衛生講習会

〔1月12日(火)〕

いわき市森林組合の主催による「令和3年林業労働安全衛生講習会」が、いわき新舞子ハイツ(p.11 地図参照)において開催され、林業従事者約60名が参加しました。

「気を抜くな 慣れた作業に 落とし穴 基本動作で再確認」をスローガンとして、いわき労働基準監督署からは、危険要因を事前に確認する「リスクアセスメント」の重要性が示されたほか、林業・木材製造業労働災害防止協会福島県支部からは、死亡災害の約7割が「伐木造材作業」で発生しており、「かかり木処理」を適切に行うための道具(フェリングレバー等)を携行するよう呼びかけられました。

最後に参加者全員で「ゼロ災でいこう」を唱和し、無事故の誓いを新たにしました。(森林林業部)



(講習会の様子)

いわき地区森林病虫害等被害対策連絡協議会を開催

〔1月15日(金)〕

カシノガキクイムシという昆虫が原因でナラ類などが枯れる“ナラ枯れ”被害が全国で発生し、いわき市内でも被害が出ていることを受けて、県いわき合同庁舎においていわき地区森林病虫害等被害対策連絡協議会を開催しました。

協議会では、磐城森林管理署・いわき市・いわき市森林組合等関係各機関と被害情報を共有し、今後の対策方針について話し合うとともに、新しい防除法の紹介*も行いました。

ナラ枯れ被害の収束を目指して、今後も各機関が連携して被害の監視と対策に取り組んでまいります。

*TWT…クリアファイルを活用した捕獲トラップ。下記 URL 参照。

URL : <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/kashinagahigaitaisaku.html>



(協議会の様子)

(森林林業部)

いわき地方農地中間管理事業等推進連絡調整会議

〔12月2日(水)〕

(公財)福島県農業振興公社(以下、「公社」という。)の主催により、本年度2回目となるいわき地方農地中間管理事業等推進連絡調整会議が、県いわき合同庁舎において開催されました。会議では、公社、いわき市・いわき市農業委員会、JA 福島さくらいわき地区本部、市内各土地改良区等の担当者出席し、本年度の農地中間管理事業(以下、「管理事業」という。)の推進、「人・農地プラン」の作成、担い手の育成確保について、これまでの実績や経過、活動上の課題等を共有しました。

本年度のいわき市内における管理事業の実績は、令和2年11月末時点で借入面積が81.1ha、転貸面積では99.6haとなりました。また、「人・農地プラン」については、赤沼地区での新規作成、北神谷・水品地区での実質化等の実績がありました。

農業の担い手の減少や高齢化が進む中において、限られた担い手へ農地の集積を進めることは、今後より一層重要となってきています。今後も各集落への支援や次年度の推進活動に向けた協議を進めてまいります。引き続き、各関係機関・団体の各々の役割を發揮して担い手への農地集積を進め、地域の営農の継続・発展を目指していきます。

(農業振興普及部)

**新たなふくしまの未来を拓く園芸振興いわき地方推進会議産地支援
チーム会議を開催**
〔12月10日(木)〕

県いわき合同庁舎において、県、いわき市及びJA等関係機関・団体により、令和2年度 新たなふくしまの未来を拓く園芸振興いわき地方推進会議産地支援チーム会議を開催しました。

本年度2回目となる本会議では、「園芸産地復興計画」に位置づけられている「いちご」「ねぎ」「日本なし」「りんどう」の4品目について、これまでの取組や課題を当部から報告した後、今後の課題や方策について出席者で協議しました。

日本なしの病虫害防除やりんどうの生産者確保等、幅広い問題提起がなされ、関係機関・団体が協力しあって、対応していくことを再確認しました。

本計画は本年度が最終年となりますが、取組の成果は、今後のいわき地方の農業振興計画に生かしてまいります。
(農業振興普及部)



(チーム会議の様子)

農業ワークショップ～体験しながら学ぶトルコギキョウ栽培～を開催〔12月18日(金)〕

いわき管内のトルコギキョウ栽培者、栽培希望者を対象に、山田町のトルコギキョウ栽培者ほ場でトルコギキョウの栽培を体験する農業ワークショップを開催しました。

ワークショップには農業者12名が参加し、播種容器への用土詰め、播種、初期かん水について真剣に作業を行うなど、トルコギキョウ栽培への関心の高さがうかがえました。

本ワークショップは、令和3年6月にかけて計6回の開催を予定しています。途中参加も可能ですので、トルコギキョウ栽培に興味のある農業者の方は、ぜひ当部(TEL 0246-24-6161)までご連絡ください。



(トルコギキョウの播種を体験する農業者)

(農業振興普及部)

ほ場整備事業「錦・関田地区」「下仁井田地区」で権利者会議を開催
〔12月18日(金)(錦・関田地区)〕〔12月24日(木)(下仁井田地区)〕

ほ場整備(農地の区画整理)事業の錦・関田地区、下仁井田地区は、東日本大震災による津波被害を受けた沿岸部の農地で、どちらも平成25年度に事業を開始し、錦・関田地区は約68ha、下仁井田地区は約47haの区画整理を行いました。ほ場整備では、事業に参加した農家が所有する農地の権利を、整備後の区画形状に合わせて再編する「換地」という手続きが必要で、この換地計画について関係者の承認を得るための「権利者会議」を開催します。

この会議を、錦・関田地区では県いわき合同庁舎、下仁井田地区では大浦公民館で開催し、両地区とも賛成多数によって換地計画が承認されました。

今回は新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、権利者の方々には原則、書面議決書の提出による会議への参加としていただき、最小限の人数で開催いたしました。
(農村整備部)



(議長による会議の進行(下仁井田地区))

いわき地方特定家畜伝染病防疫演習を開催〔12月22日(火)〕

いわき市立南部アリーナ（p.11 地図参照）において、特定家畜伝染病の発生を想定した防疫演習を実施しました。

高病原性鳥インフルエンザや豚熱（CSF）は、家畜伝染病予防法において法定伝染病に位置づけられており、発生した場合には国の防疫指針に基づき速やかに防疫措置を講じる必要があります。

今回の防疫演習では、関係機関・団体から約90名が参加し、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、防護服の正しい着脱方法や車両の消毒、農場での鳥インフルエンザ発生を想定した殺処分等の演習を通して、防疫措置に関する知識の習得や、実際に家畜伝染病が発生した際の作業を確認しました。

参加者からは、「防護服の着脱が難しかった」「自分の業務が理解できた」などの意見があり、大変有意義な演習となりました。

引き続き特定家畜伝染病発生に備え、万全な体制整備に努めてまいります。（農業振興普及部）



（消毒ポイントでの消毒作業演習）



（鶏の模型を使用した殺処分演習）

トピック1

マルトのおにぎりが「お弁当・お惣菜大賞2021」最優秀賞を受賞！
〔1月8日(金)〕

いわき市から日本一のおにぎり誕生の快挙です。（一社）全国スーパーマーケット協会主催「お弁当・お惣菜大賞 2021」（応募総数 42,549 点）において、いわき市の（株）マルト（安島浩代表取締役）の「手作りおにぎり又兵衛しまほっけ」が、おにぎり部門で「最優秀賞」を受賞しました。

受賞記念記者会見において、安島大司取締役本部長は「東日本大震災の被災地から日本一のおにぎりを発信したいとの想いから、地場産品を積極的に取り入れ、『おいしさ』をとことん追求した、食べると笑顔になる、みんなを結ぶ『おにぎり』です」と話しました。

この商品は、生産者や品質を厳選したいわき産コシヒカリ「Premium Iwaki Laiki」（プレミアムいわきライキ）と、いわき市の地酒「又兵衛」の酒粕に漬込んだホッケのほぐし身を、ミシュランガイド東京掲載店「おにぎり浅草宿六」の3代目店主・三浦洋介氏の厳しい審査に合格したおにぎり職人だけが握ります。3回だけの握りによる米の粒感、ホッケ、塩味、パリパリの海苔が一体となって、ふっくらとした幸福感に包まれ、また食べたくなる絶品のおにぎりです。

当初の販売商品は、しまほっけ、釜揚げしらす、北海道産時鮭、焼たらこ、紀州産南高梅の5種類で、一部店舗での限定販売から将来的には全店販売を目指します。同社では、おにぎりの「ネーミング」を2月28日まで募集しています。詳しくは、同社HPをご覧ください。

日本一のおにぎりをぜひご賞味ください！ URL：<http://maruto-plus.com/onigiri/>（企画部）



〔左から 又兵衛、おにぎり、Premium Iwaki Laiki〕



〔社内審査に合格したおにぎり職人の皆さん〕



〔手作りおにぎり又兵衛しまほっけ〕



お知らせ

いわき地方の出荷制限等品目

令和2年12月末日現在、いわき地方の農林畜水産物のうち、出荷が制限等されている品目は(表)のとおりです。

出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により基準値(100Bq/kg)以下であっても出荷・販売はできませんのでご注意ください。(企画部)

(表) 農林畜水産物の出荷制限等品目(令和2年12月末日現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ(野生のものに限る)、わらび(野生のものに限る)*、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
出荷自粛	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

※わらび(栽培)は該当生産者15名のほ場に限り出荷制限が解除されました。

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果(令和2年12月分)

□ 農林畜産物の検査結果

令和2年12月の農林畜産物モニタリング検査では、9品目18検体を検査し、全ての検体について放射性セシウムが基準値(100Bq/kg)を超えたものはありませんでした。内訳は(表)のとおりです。

(表) 放射線セシウムが基準値以下の品目と検体数

サツマイモ1、トマト(施設)1、ユズ1、ブロッコリー1、ハクサイ1、菌床しいたけ(施設)8、菌床なめこ(施設)2、牛肉2、原乳1
--

(企画部)

□ 海産魚介類の検査結果

令和2年12月の水産物モニタリング検査では、129検体の魚介類を検査し、全ての検体について放射性セシウムは検出されませんでした。(水産事務所)



平第六小学校で現場見学会(夏井川左岸地区)を開催

〔12月16日(水)(コンクリートポンプ車打設見学)〕

〔12月18日(金)(用水路見学)〕

県営長寿命化・防災減災事業 夏井川左岸地区として、老朽化した用水路の補修工事を行っています。今年度はいわき市立平第六小学校(p.11 地図参照)の北側で工事を行っているため、平第六小学校児童に向けて現場見学会を開催しました。

1年生を対象としたコンクリートポンプ車打設見学では、アジテータ車(生コン運搬車)からコンクリートポンプ車へコンクリートを投入する様子や、用水路にコンクリートを打設する状況を見学しました。

4年生を対象とした用水路見学では、実際に用水路の脇を歩いて、補修前と補修後の状況や補修方法について学ぶことができました。(農村整備部)



(コンクリートポンプ車打設見学状況(1年生))



(用水路見学状況(4年生))



「高校生発！いわきテイクアウトメニュー開発」実食キャンペーン

いわき市内の高校生と飲食店・スーパーが共同開発したいわき市産農林産物を使用したテイクアウト商品が期間限定で販売されます。

アイデア豊かな高校生と腕自慢の料理人のコラボにより、地元の農林産物がさらに美味しくなっておりますので、皆さまぜひテイクアウトで堪能してみてください。



いわき農林事務所HPはこちら

●販売期間●

2月15日(月)～2月24日(水)

※飲食店等のご厚意により、全店舗で期間を延長します。詳細は当所HPをご覧ください。

URL : <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/iwaki-takeout02.html>

●販売商品●

「ネギだく和風パスタ」

ねぎが主役。生姜も効いて冬にピッタリ!!



考案者：福島県立磐城農業高等学校
3年 品川愛梨さん 他2名

販売店：酒と食の工房 ピッコロ
(いわき市平細屋町47-1)

価格：950円(税込)

「Iwaki Laiki とトマトのキッシュ」

米を使った生地はカリカリの食感!!



考案者：福島県立いわき光洋高等学校
1年 小林瑞穂さん

販売店：ダイニングキッチン 月海-Ruu-
(いわき市植田町中央1丁目3-3)

価格：600円(税込)

「パワーみなぎる3色おにぎり」

ひとつひとつは小ぶりでも食べ応え抜群!!



考案者：福島県立磐城桜が丘高等学校
2年 滝若菜さん

販売店：株式会社マルト
(いわき市内のマルト各店)

価格：322円(税込)

「金頭と米粉のハンバーグ」

おいしい魚「金頭」に米粉を混ぜてふんわりさせました!!



考案者：福島県立いわき海星高等学校
1年 山中奈緒也さん 他2名

販売店：ピストロ あん庵
(いわき市平堂ノ前22 労働福祉会館1階)

価格：972円(税込)

「きのこシュウマイ」

きのこが苦手な人にもおすすめ!!



考案者：学校法人山崎学園 福島県磐城第一高等学校
1年 岩谷咲さん 他1名

販売店：中華料理 華正樓
(いわき市平下平窪四左工門内152-6)

価格：5個入り600円(税込)

(企画部)

ふくしま地域産業6次化サポートセンターいわき事務所が開所

県では、いわき市内の地域産業6次産業化に取り組む農林漁業者及び食品加工等事業者の支援体制の充実を図るため、いわき農林事務所内に「ふくしま地域産業6次化サポートセンターいわき事務所」を開所しました。

同事務所には「企画推進員」として青沼麻美^{あおぬまあさみ}さんが着任し、ビジネスマッチングや相談、専門家派遣などの支援業務を行いますので、地域産業6次化に取り組む事業者の皆さまはぜひご相談ください。

- 設置場所：県いわき合同庁舎3階 いわき農林事務所企画部内（いわき市平字梅本 15 番地）
- 電話：080-9250-2109
- 受付時間：平日 8：30～17：15

●青沼企画推進員より●

1月5日（火）より、いわき地区の企画推進員に着任いたしました。進学・就職で地元を離れ、震災後に生まれ育ったいわきに戻り9年程になります。一度県外で生活し、地元に戻り気付いたのは、いわきは住みやすく美味しい物が沢山あること、私のように地元の魅力を知らないまま出て行ってしまう人が多いことでした。これからは、地域産業6次化に取り組む事業者の皆さんと共に、まずは市内・県内、そして全国・国外へ地域産業6次化を通していわきの魅力を知ってもらえたらと考えております。今は事業者の皆さんや仕事を覚えている段階ですが、早く皆さんをしっかりとサポート出来るよう精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



いわき事務所の看板設置を行う青沼企画推進員（右）と根本所長（左）

（企画部）

イベント情報

第4回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン ～買って 答えて 食べて～

- 日 時：令和3年1月30日（土）10:00～14:00
- 場 所：マルト SC 草野店（p.11 地図参照）
（いわき市平下神谷仲田 120）
- 主 催：福島県いわき農林事務所

キャンペーン当日店内の特設棚で販売している GAP 認証農産物を2点以上お買い上げの上、アンケートにお答えいただいたお客様に、いわき産ふくはる香（GAP 認証農産物）といわき産いちごを使用したサイダーをプレゼントします。（先着 150 名様）

当イベントは新型コロナウイルス感染拡大防止策を徹底した上で実施します。

※新型コロナウイルスの感染状況により中止となる場合があります。

（企画部）

1月30日(土)開催!! 第4回




おいしいふくしま
いただきます!
Deshi! Fukushima Itadakimasu
キャンペーン

～買って 答えて 食べて～

日時
1月30日(土)10時～14時
(配付物がなくなり次第終了)

場所
マルトSC草野店
(いわき市平下神谷仲田120)

キャンペーンの内容

- ★認証GAPの取組紹介
- ★GAPに関するアンケート（先着150名様）
- ★キャンペーン当日店内の特設棚で販売しているGAP認証農産物を2点以上お買い上げの上、アンケートにお答えいただいたお客様に、**いわき産ふくはる香（GAP認証農産物）といわき産いちごを使用したサイダー**をプレゼントします。
- ★アグリ☆ファイブズの配付

※新型コロナウイルス感染拡大防止策のため、マスクの着用、手洗い消毒や消毒液の配布を十分行なうことと、経路の確保をお願いします。
※新型コロナウイルスの感染状況により中止となる場合があります。

お問い合わせ先
福島県いわき農林事務所企画部
〒970-8026 いわき市平字梅本15
電話：0246-24-6197



GAP コーナー

GAP (Good Agricultural Practice) : 「農業生産工程管理」

ふくしま県GAP認証書交付式が行われました！ [1月8日(金)]

果樹生産者の渡邊信行氏及び水稲生産者の久野淳一氏がふくしま県GAP (FGAP) 認証を令和2年12月23日に取得されました。この認証書交付式が行われ、根本所長からお2人へ認証書が手渡されました。

渡邊氏は平窪地区でキウイフルーツを60a栽培しており、より安心安全なキウイフルーツ栽培を目指しGAP認証を取得されました。

久野氏は四倉地区で水稲を約1ha栽培しており、県オリジナル品種「福、笑い」の栽培に取り組むためGAP認証を取得されました。

FGAPの認証取得をきっかけに、いわき市産のキウイフルーツ及び米が地域内外へPRされるとともに、今後のお二人の活躍が期待されます。

当部としては、認証GAP取得による経営改善、販売力の強化等を支援するとともに、今後もGAP認証取得を推進してまいります。



〔左から 木村農業振興普及部長、渡邊氏、久野氏、根本所長〕

(農業振興普及部)

トピック3

いわき市漁業協同組合久之浜支所出初め式 [1月8日(金)]

いわき市漁業協同組合久之浜支所 (p.11 地図参照) の出初め式が執り行われました。江川組合長をはじめ、久之浜支所の漁業者、女性部員、漁協職員など合わせて約30名が参加しました。出港に先立ち、神職が祝詞を奏上し漁船と各船の船頭へのお祓いをした後、玉串を神前に捧げて礼拝し、今年の漁の安全を祈願しました。神事の後には久之浜支所で最も大きい底びき網漁船である清幸丸を先頭に、底びき網漁船、小型漁船の順に20隻ほどが出港し、久之浜漁港の周りを1周しました。

消費者の皆さまの応援が水揚量増大の後押しとなっています。今年度もよろしくお願いいたします。(水産事務所)

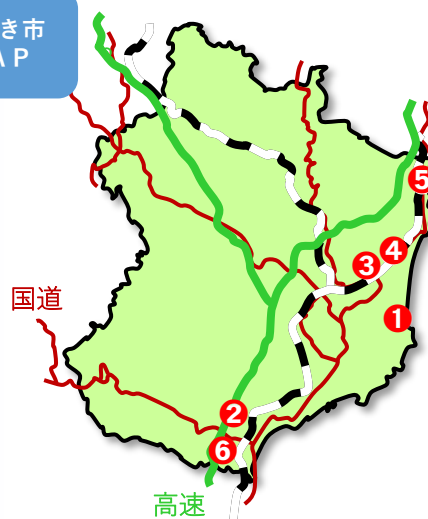


(神事の様子)

今月号に掲載した場所はここです！

- ① いわき新舞子ハイツ (p.5)
平下高久字南谷地 16-4
- ② いわき市立南部アリーナ (p.7)
錦町細谷 102-58
- ③ いわき市立平第六小学校 (p.8)
平中神谷字石脇 22
- ④ マルト SC 草野店 (p.10)
平下神谷仲田 120
- ⑤ いわき市漁業協同組合久之浜支所 (p.11)
久之浜町久之浜字館ノ山9
- ⑥ 株式会社 マルト 本部 (p.12)
勿来町窪田十条3番1

いわき市
MAP



こだわりと美味しさがつまった いわき自慢の6次化商品をご紹介します！

いわき市・山崎製パン株式会社・株式会社マルトの協力のもと、県立平商業高校の課題研究「食パンプロジェクト」を選択した3年生の生徒19名が、食パン「PILINA(ピリナ)」を考案しました。

「PILINA」はハワイ語で「絆」や「繋がり」を意味し、「食べた人が笑顔で繋がれるように」との願いを込め、平商業高校の生徒さんによって名付けられました。

いわき産コシヒカリ「Iwaki Laiki」の米粉を10%使用し、もちもちとした食感と甘みが楽しめます。また、パッケージデザインにはハワイを思わせる青い海やハイビスカス、平商フラキャラ「まほろちゃん」を使用するなど、生徒さんのこだわりが詰まっています。

いわき市内と茨城県のスーパーマルト各店で買い求めいただけます。是非ご賞味ください！



株式会社 マルト

住所：いわき市勿来町窪田十条3番1
TEL:0246-65-5115
FAX:0246-65-6610

お問い合わせ

所在地は p.11 のマップを参照

編集後記

あけましておめでとうございます。本年もいわき管内の農林水産業に関する様々な情報を発信してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本誌 p.7でご紹介した日本一に輝いたおにぎりを早速いただいたのですが、ふっくらとした食感とともに食材そのものの旨味が感じられてとても美味しかったです！

さて、いよいよ来月15日から市内の高校生と飲食店・スーパーが共同開発したテイクアウトメニューの販売がスタート！いわき産農林産物の魅力とアイデアが詰まったこだわりの商品をぜひご家庭で味わってみては？(企画部 U)



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)
TEL (0246)24-6152 FAX (0246)24-6196
URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース